

聖書の言葉

平和を実現する人たちは
幸いである。
その人たちは
神の子と呼ばれる。
マタイによる福音書5章9節

シャロームタイムズ

2011年8月14日(日)発行

宗教法人

野毛山キリストの教会

〒220-0042 横浜市西区老松町30番地

平和聖日

8月第1日曜日は、平和聖日として
平和について考え、過去の戦争の過ち
を忘れないように、風化されないよう
にと覚えてずつと礼拝をささげ参り
ました。今年も去る8月7日(第1主日)平和聖日として礼
拝をささげました。

平和の道具についてください

奈良 昌人牧師

【聖句】「平和を実現する人々は、幸いである。」

その人たちは神の子と呼ばれる。」

マタイによる福音書5章9節
昨6日(土)は66回目の広島原爆記念日でした。この
1年間に原爆が原因で亡くなった人は5785人で、
計275230人の名前が原爆死没者名簿に記載され
ました。原爆死没者慰霊碑の石室前面には「安らかに
眠ってください。過ちは繰返しませぬから」と刻まれ
ています。この過ちは誰が犯したのか、繰り返さな
いようにするのは誰なのかと改めて心に覚えていま
す。東郷 潤の絵本「終りのない物語」は、人間は過ちを
犯さずに生きることをできない、「憎しみの連鎖」の
中に生きる者であることをストレートに描いています。
憎しみの連鎖が正当化されて報復の連鎖となり、その
鎖がますます大きくなっていく。この鎖は断ち切る
ことができないのでしょうか。難しいことなのかも知
れませんが、考えようによっては簡単なことで、報復
を、どこかで止めればよいことなのです。しかし、そ
れを私たちはできないのです。このような私たちに
「平和を実現する人々は幸いである」とキリストは教
えられます。平和を実現する人々(ピースメーカー)とは
どのような人のことでしょうか。ノーベル平和賞受賞
者でしょうか。残念ながらノーベル平和賞を受賞した
人で平和を実現した人は一人もいません。では、平和
を実現することは不可能なのかと言おうとそうではな
く、「平和を実現する人々は幸いである」との言葉を話さ
れたお方こそが平和を実現された聖書に記されていま
す。「実に、キリストはわたしたちの平和でありま
す。」「十字架を通して、両者を一つの体として神と
和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。」
(エペソ14章16節)とあるように、イエス・キリスト
は十字架によって、憎しみの連鎖、報復の連鎖を断ち
切られました。主イエスは十字架の上の苦しみのさなか
にあられた。自分も十字架につけた人々の苦しみを父な
る神さまに執り成して「父よ、彼らをお赦しください
自分が何をしているのか知らないのです。」(ルカ24章

34節)と祈られ、真の平和の道を示してくださいました。
真の平和は、このイエス・キリストによってもたらさ
れるべきです。ヘブル語のシャローム(平和)という言
葉は、今も挨拶の言葉として用いられている言葉です
が、この言葉には単なる平和ではない、神の平和とい
う意味があります。神がもたらしてくださいる平和。私
たちはまず神さまとの関係を正すことが求められ、次
いで人間同士の平和が実現してきます。なぜなら、
人間は罪のゆえに神さまから離れており、その結果と
して隣人との間に平和を保つことが出来ません。神か
ら離れるという罪は、人間の力によって修復すること
はできず、それゆえ神さまはイエス・キリストをこの
世にお遣わしになり、十字架によって罪を贖い、神さ
まとの間に和解をもたらしてくださいました。つまり、
神の平和とはキリストによる平和であり、その平和は
既に私たちが与えられています。私たちは神さまとの
間に平和があり、ゆえに互いに愛し合うことができる
のです。このことを宣言していくことが教会に与えら
れている使命であり、私たちが「平和を実現する人々」
として為していくことなのではないでしょうか。世界
にキリストの平和が実現するように、ピースメーカー
としての役割を為していくことができますように、平
和の道具にしてくださいと、切に祈ります。
(8月7日(第1主日)平和聖日)礼拝説教に多少加筆
奈良昌人牧師

広島 (ヒロシマ)

1945年(昭和20年)8月6日午前8時15分。原子爆
弾トルボーイは、第33代アメリカ合衆国大統領ハ
リー・S・トルーマンの原子爆弾投下の大統領命
令を受けたB-29(エノラ・ゲイ)によって
この1年に亡くなった方 5785人
計275231人

長崎 (ナガサキ)

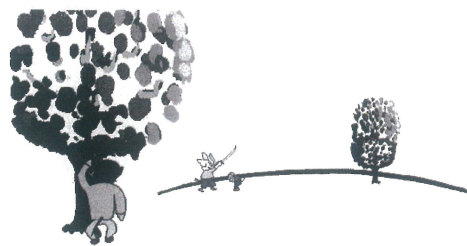
広島の3日後の1945年8月9日午前11時2分、B-29
(ボックスカー)が長崎市に原子爆弾ファットマ
ンが投下しました。
この1年に亡くなった方 3288人
計155546人

出席 主日礼拝 35人
平和を語る会 49人

終わりのない物語



とろろいん



- ①あるところに正義を愛する立派なお猿さんがすんでいま
した。彼は毎日、あちこち、パトロールしてどんな
小さな悪も見逃しません。
- ②ある時パトロールをしていると、誰かが誰かを殺して
いるところを見つけました。
- ③猿は、命がけで戦って悪者をやっつけました。
- ④さて、近くの村には、やはり善を愛し悪を憎む立派な
猫さんが住んでいました。彼は殺された猫さんの親戚
です。親戚が殺されてから、彼はますます悪を憎み、
正義を愛するようになっていました。
- ⑤ある日、猫さんがパトロールをしていると、誰かが誰
かを殺しているところを見つけました。
- ⑥そして・・・

「続く」から「はじめ」に戻ってしまいます。
「やられたらやりかえす」ということでは、憎しみの連鎖
を生んでいきます。
終わりのない物語です。

共に歩もう

坂本 正夫

私は岩手県生まれで、父は鉱山で働いていましたから鉱山という所は、どこを向いても山ばかり、そんなところで住んでいました。

戦争の終わった年は昭和20年8月、私は15才でした。今の年代で申しますと、中学2年生の年です。私の受けた学校教育は、戦争前の教育と戦争中の教育で、日本の国は今戦争しているけれど、必ず勝つ。最後の兵になるまで戦うのだと先生に教えられていました。NHK朝のテレビドラマ「おひさま」を見られた方はおわかりでしょうが、子どもたちまで、竹槍を持つ練習をさせられたものです。

しかし、8月15日、戦争が敗戦で終わったことを知らされたとき、こんなはずじゃなかった。学校の先生が「うそ」を教えたのだらうと思いましたが、それ以来、学校教育がされたのだらうと、想いめぐらせられ、考えたも考えてもわかりません。深刻に考えさせられ、私も先生のような戦時教育の下で自分の両親以上に学校の先生を信頼し、尊敬しておりました。子どもたちの将来のためと言って、熱心に指導してくださる先生でしたから、それが、その先生に国の政策とされる先生で、「うそ」を教えられたかと思うと、それは悔しかったです。先生を恨みました。そのことから、学校の先生を責め、文部省の教育方針を責め、国家を責め、社会を責め、結論として得られたものは、人間は人間のべき、「人の生きる道」を知らないのだという結論に達しました。なぜなら、人間は創られたもので人生の設計者・創造主でないからです。人間を創造された「神さま」だけが人生の意義・目的のあるべき姿がわかります。私たち人間は、等しく造られたもので、人生の設計者ではありません。ですから、神さまに生きようとする人は、必ず人生の設計者・神さまに聞き、そのことを何よりも大事に考えているのでしょうか？皆さまでお聞きします。



「実際に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストのことばを聞くことにより始まるのです。」と聖書ローマ書10章17節に書いてあるとおりです。

8月15日は太平洋戦争終戦から、今年66年目を迎え、

国家に於いて、個人に於いて自己反省が強調されます。この時、教会では、世界の平和を祈り、命の尊さを語り、イエス・キリストの平安を共に祈ります。

私の二人の兄も戦争に行き、一人はフィリピン・ルソン島で戦死、22才でした。その兄は昭和19年、岩手県盛岡工兵連隊に入隊していたとき、どこか外国に行くらしいので、家族に面会に来るようにとのことだったので、私は学徒動員令国の政策により学生が会社で働くこととして働かされたばかりだったので、面会に行きませんでした。そのことが、家族、兄弟の別れになろうとは14才の私には考えも及ばず、今でも悔やまれます。その兄は、兄弟中一番思いやりのあり、親孝行でした。今は亡き母から聞いたことですが、戦死した兄が、「戦争に行きたくない」と心の内を母に語ったそうです。当時戦争に行くことは名譽であるといわれた時代に、どうしてそんな心境になったか不思議でした。考えられることは、後日、兄の遺品の中に、「マルコによる福音書」があつて、「剣を取るものは、剣で滅びる」とある聖書のことばを知っていたからではないかと思ひました。私はその当時、マルコによる福音書が聖書の分冊であることを知らず、引越しのとき、その分冊を捨てたと思ひます。けれどもマルコによる福音書の文字が私の脳裏から離れませんでした。昭和28年、関東学院三春台に転居し、建築業から離れた久慈市からおいでの矢幅牧師から新約聖書をいただいたとき、マルコによる福音書が聖書の分冊であること始めて知りました。今でも真夜中に目が覚め、当時のいろいろなことを思い出し、眠れないことがあります。その時、ふと起きて祈つてお祈りしました。そんなことから折りに聞かれたと思うのですが、平成8年8月3日、52年ぶりに、戦死した兄と同じ部隊で九死に一生を得て、フィリピンから生還された青森出身の方から山形県の慰霊祭の席で、戦場の状況、部隊の様子や、東北4県の遺族関係者が、山形県で毎年追悼・合同慰霊祭を行っていることを知りました。今日まで私の人生にさまざまな体験や試練がありました。救い主イエス・キリストに「愛されて」と信じられたことが私の人生で最大の喜びです。目に見えないものを信じることは「信仰による」と、聖書にありませぬ。創造主・神さまのことばである聖書の御言葉を信じられる人に、罪人であつても、赦しがあり、救いがあり、平安があり、感謝と希望があり、愛のうちにとどまります。私たちが平和の世に共に生きるため、聖書の御言葉を大切にしましょう。

終わりに、聖書の御言葉をお読みして終わります。

「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい」とあります。

ルカによる福音書10章27節

今年の絵本

おきなわ島のこえ
ヌチドゥ タカラ
(いのちこそたから)

丸木 俊・丸木 位里

今年2011年は、沖縄返還協定が締結されて40周年となります。今年は、「おきなわ 島のこえ」という絵本を通して、戦争の悲惨さについて知りました。多くの観光客が訪れる沖縄、美しい海、白い砂浜、しかし、そこには数知れない悲しいできごとがあります。沖縄では日常の中に戦争の悲しみがあります。

日本国内での最大規模の地上戦沖縄戦のお話です。

平和の歌をつたおう

言葉のひとつひとつに、歌を作詞・作曲した人の思いがあります。その歌・曲がつくられた背景、作者の生いたち等を知ることによって、その歌に対する想い、想いがわかります。そして私たちがより一層心込めて歌うことができるでしょう。今まで歌いつないできた平和を求めると共に、これからも「平和」を考え、「平和」を祈りましょう。

さとうきび畑(詞・曲 寺島 尚彦)

沖縄戦ではたくさんの人たちが殺し合い、集団自決しました。数え切れないほど多くの戦死者、自決者がさとうきび畑の下に眠っています。この歌の主人公の少女は、大きくなつてから沖縄戦で死んだ顔も知らない父親を探しに、ひとり、さとうきび畑に行きます。「ざわわ」と通りぬける風の音を聞きながら悲しみを訴えています。「ざわわ」と66回繰り返される風の音は悲しみの深さをうたっているのではないのでしょうか。そのことを想い、みんなで11番まで歌いました。



つなげよう 平和の思い

